

区分	戸建住宅 	集合住宅 
----	---	--

<p>基本性能、断熱性能</p> <p>適正な耐震性能、長期優良住宅(戸建)認定など、住宅としての基本性能を備えます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○耐震性能 建築基準法に定める基準に適合。 ○専有面積 各戸の住戸専有面積が25m²以上。 ○居住設備 各戸が台所、水洗便所、収納設備、洗面所及び浴室を備える。 	<p>設計・建設住宅性能評価書の交付。</p>
--	---	-------------------------

<p>断熱性能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○断熱等性能等級4に相当する断熱性能を有すること。 <p>等級区分には1から4まであり、等級が大きいくほど断熱性能に優れています。高い断熱性能は、冷暖房効率をあげる効果があるため、省エネに有効です。</p>
--------------------	---

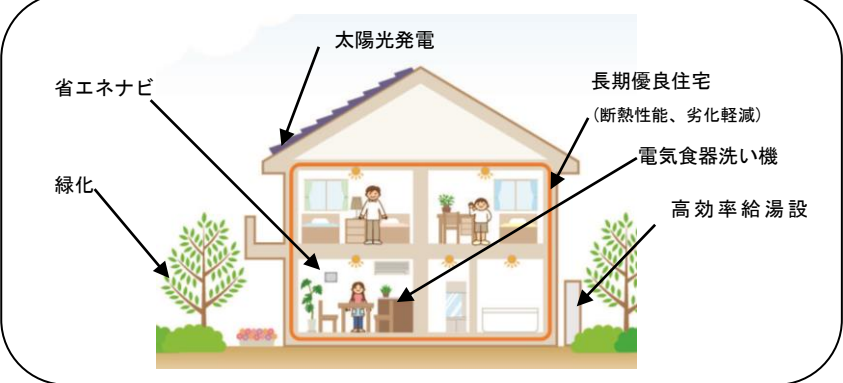
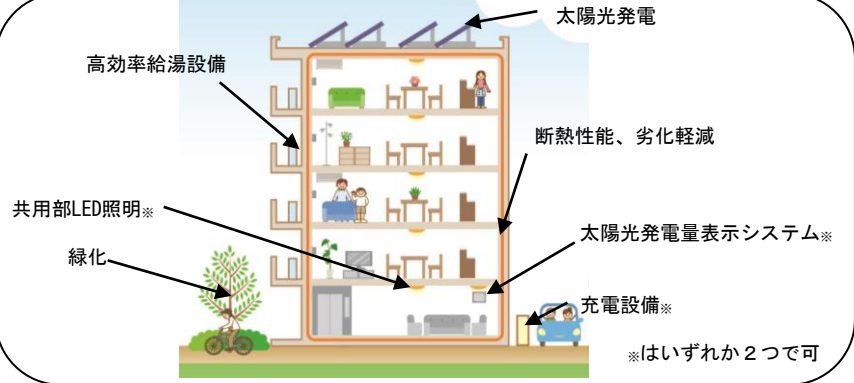
<p>劣化の軽減</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○劣化対策等級3に相当する劣化対策を講じること。 <p>等級区分には1から3まであり、等級が大きいくほど劣化の進行が遅くなります。長寿命化を図ることで建設解体による環境負荷を低減できます。</p>
---------------------	--

<p>給湯設備</p> <p>家庭におけるエネルギー消費の約3割が給湯です。高効率型の給湯器採用により、エネルギー消費を抑えます。</p>	<p>以下のいずれかの設備を設置（集合住宅の場合、全住戸にいずれかを設置。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○潜熱回収型給湯器（エコジョーズ※1） 排気熱を活用することにより、従来のガス給湯器では約80%であった熱効率が、エコジョーズでは約95%になるといわれています。 ○CO2冷媒ヒートポンプ給湯器（エコキュート※2） 大気熱を利用して給湯の熱エネルギーをつくり、1の電気エネルギーにより3以上の熱エネルギーを得ることができるといわれています。 ○ガスエンジン給湯器（エコウィル※3） ガスエンジンで発電を行い、その際に発生する廃熱を給湯などに利用するシステムです。発電した電気は電力会社の電気と併せて使用できます。 ○燃料電池コージェネレーションシステム（エネファーム※4） ガスから取り出した水素を、空気中の酸素と化学反応させて発電を行い、その際に発生する廃熱を給湯などに利用するシステムです。
--	--

<p>エネルギーを作る設備</p> <p>自然エネルギー利用や、高効率なエネルギー利用により、省エネ、省CO2に配慮します。</p>	<p>以下のいずれかの設備を設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ○太陽光発電システム 公称最大出力1.0kW以上 太陽電池を用いて、光エネルギーを電気に変換するシステムで、太陽光の10~20%程度のエネルギーを電気に変換できるといわれています。 ○太陽熱利用機器 全集熱器の有効集熱面積3.0m²以上 太陽光を利用して水を温める装置で、太陽光の50%以上のエネルギーを熱として利用できるといわれています。屋根の上に設置する太陽熱温水器は古くから利用されており、他にも強制的に熱媒を循環させるソーラーシステムなどがあります。 ○燃料電池コージェネレーションシステム（エネファーム） 	<p>以下のいずれかの設備を設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ○太陽光発電システム 公称最大出力3.0kW以上 ○太陽熱利用機器 全集熱器の有効集熱面積9.0m²以上 ○燃料電池コージェネレーションシステム（エネファーム） エネファームは全住戸の10%以上に設置。
---	--	--

<p>環境への意識を向上する設備</p> <p>エネルギーの見える化など、住まう方が日々の生活の中で環境に関心が持てるような設備です。</p>	<p>以下のいずれか2項目の設備を設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ○省エネナビ 家庭の分電盤等に設置して電力消費量を計測し、モニターに表示するシステムです。リアルタイムで電力消費量が表示され、省エネルギーの実践行動を促す効果が期待できます。 ○電気自動車等充電設備 普及が想定されるクリーンな次世代自動車充電設備です。 ○節水に資する設備 以下いずれかを設置 <ul style="list-style-type: none"> ・節水便器 ・節水水栓 ・電気食器洗い機 従来より節水に優れ、浄水に要するエネルギーも削減できます。 	<p>以下のいずれか2項目の設備を設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ○省エネナビ（全住戸） ○電気自動車等充電設備 ○太陽光発電量表示システム 発電量をリアルタイムに表示するシステムを共用部に設置します。 ○共用部のLED照明 LED照明は白熱灯に比べ消費電力が1/7~1/8程度、寿命が約40倍と高効率な照明です。 ○節水に資する設備 以下いずれかを設置 <ul style="list-style-type: none"> ・節水便器 ・節水水洗 ・電気食器洗い機
--	---	---

<p>緑地の確保</p> <p>ヒートアイランド現象などの環境問題が顕在化する都市部においては、緑化を進めることが重要です。都市環境だけでなく、住まう方のくつろぎと安らぎの場にもなります。</p>	<p>以下の面積の緑地を確保すること</p> <p>敷地面積が500m²未満：緑地面積＝$(敷地面積 \times (敷地面積 \times 0.0001))$ m²</p> <p>敷地面積が500m²以上：緑地面積＝$(敷地面積 \times 0.05)$ m²</p> <p>例：100 m²の敷地では1%、1 m²の緑地、300 m²の敷地では3%、9 m²の緑地を要します。</p> <p>500 m²以上の敷地では一律5%の緑地を要します。</p>
---	--

<p>設備設置の一例</p> <p>(イメージとしての一例ですので、機器選択時は要綱をご確認ください。)</p>		 <p>※はいずれか2つで可</p>
---	--	---

※ 本書に記載の※1は東京瓦斯(株)、※2は関西電力(株)、※3は大坂瓦斯(株)、※4は東京瓦斯(株)、大坂瓦斯(株)、新日本石油(株)の登録商標です。